

目 次

警防編

火災

・火災の概要	1
・火災件数の推移	1
・火災発生状況前年との比較	2
・月別火災発生状況	3
・出火原因	4
・初期消火状況	4
・原因別出火件数及び損害額	5

救急

・救急体制	6
・救急医療体制	6
・救急の概要	7
・救急出動状況	8
・救急出動状況前年との比較	9
・月別救急出動件数	10
・時間別救急出動件数	11
・急病にかかる疾病分類別搬送人員	11
・現場到着所要時間別出動件数	12
・病院収容所要時間別搬送人員状況	12
・応急処置等の実施状況	13
・救急講習会実施状況	14

救助

・救助体制	15
・救助の概要	15
・出動件数等の推移	15
・救助出動状況前年との比較	16
・月別救助出動件数	16
・救助種別及び傷病程度	17
・発生場所別出動件数	17

管制

・ 消防通信系統図	1 8
・ 指令センター	1 9
・ 指令電送装置・消防職員／消防団指令システム	1 9
・ 兵庫県災害対応総合情報ネットワークシステム	1 9
・ 兵庫衛星通信ネットワークシステム	1 9
・ 兵庫県広域災害・救急医療情報システム	1 9
・ Net 1 1 9 緊急通報システム	1 9
・ 緊急通報システム	1 9
・ 聴覚障がい者FAX	1 9
・ 非常通報電話	1 9
・ 緊急情報ネットワークシステム	1 9

通信・気象

・ 1 1 9 番受付件数	2 0
・ 気象状況	2 1

施設・装備

・ 消防水利の現況	2 2
・ 消防車両一覧	2 2
・ 主な消防機械器具の状況	2 3

水防

・ 事前調査	2 4
・ 活動	2 4

火 災

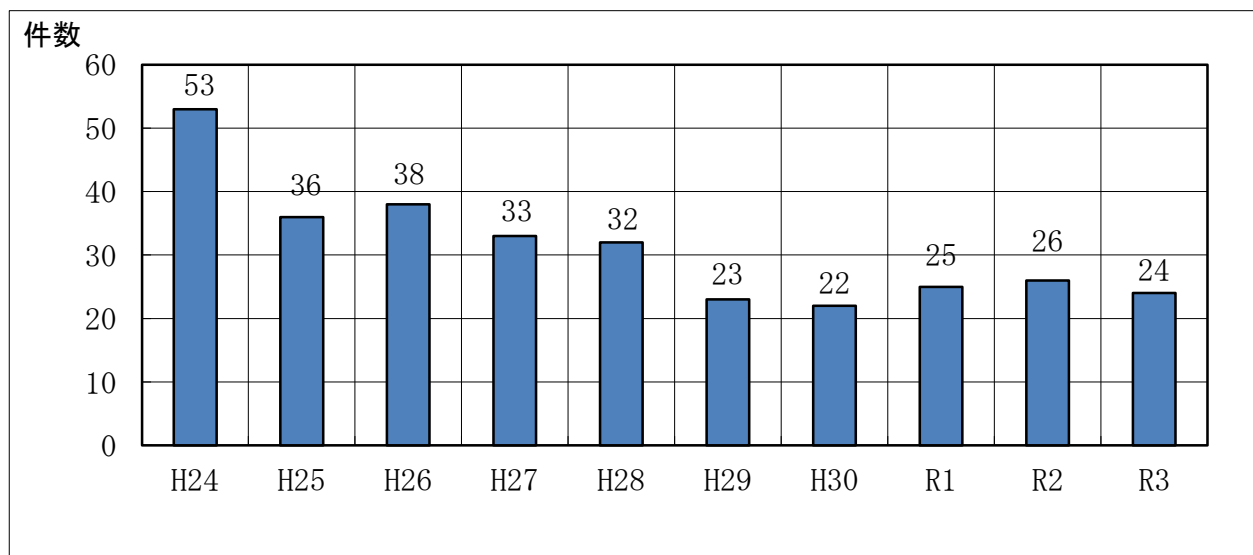
火災の概要

令和3年の火災件数は24件で、前年に比べ2件の減少となっています。

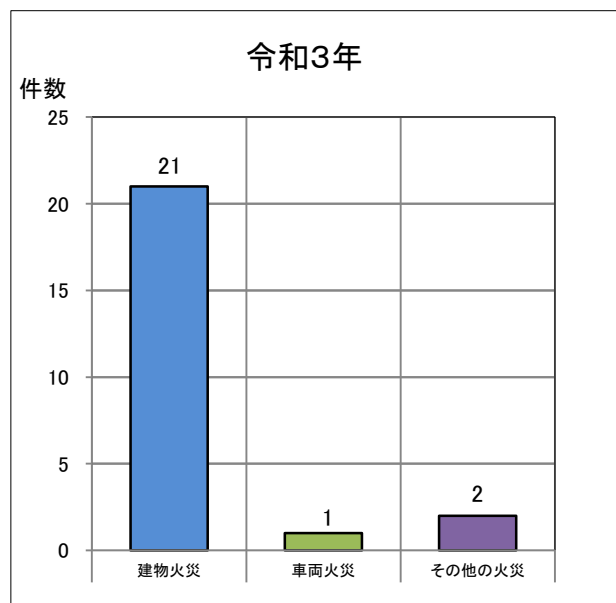
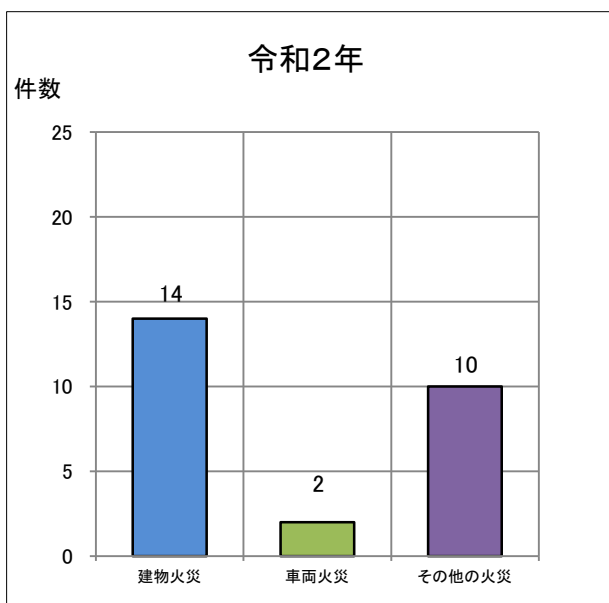
火災損害額は68,230千円で、前年に比べ40,711千円減少し、1件あたりの損害額は2,843千円となっています。

死傷者については、死者1人（前年比1人増）、負傷者6人（前年比増減なし）となっています。

火災件数の推移



火災種別で見ると、建物火災が21件（前年比7件増）と最も多く全体の88%を占め、次いでその他の火災が2件（前年比8件減）で8%、車両火災が1件（前年比1件減）で4%となっています。



火災発生状況前年との比較

区 分		年 別		令和3年	令和2年	増 減
火 災 件 数	建 物 火 災			21	14	7
	林 野 火 災					
	車 両 火 災			1	2	△ 1
	船 舶 火 災					
	航 空 機 火 災					
	そ の 他 の 火 災			2	10	△ 8
	合 計			24	26	△ 2
損 害 額 (千円)	建 物			65,553	108,393	△ 42,840
	林 野					
	車 両			1,562	486	1,076
	船 舶					
	航 空 機					
	そ の 他			1,115	62	1,053
	爆 発					
	合 計			68,230	108,941	△ 40,711
焼 損 面 積	建 物	床 面 積 (㎡)		862	511	351
		表 面 積 (㎡)		11	162	△ 151
	林 野 (a)					
焼 損 車 両 台 数				3	2	1
焼 損 棟 数	全 焼			5	4	1
	半 焼			2	1	1
	部 分 焼			6	12	△ 6
	ぼ や			14	10	4
	合 計			27	27	0
り 災 世 帯 数				10	21	△ 11
り 災 人 員				14	44	△ 30
死 者				1		1
負 傷 者				6	6	0

月別火災発生状況

(令和3年)

区 分		月 別												
		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
火災 件数	建物火災	21		4	3	4	2	1	1	3	1		1	1
	林野火災													
	車両火災	1		1										
	船舶火災													
	航空機火災													
	その他の火災	2										2		
	合計	24		5	3	4	2	1	1	3	1	2	1	1
損害 額(千円)	建物	65,553		224	30,925	25,851	354	4,684	45	3,276	110		71	13
	林野													
	車両	1,562		1,260		217		85						
	船舶													
	航空機													
	その他	1,115		1,065		17		33						
	爆発													
合計	68,230		2,549	30,925	26,085	354	4,802	45	3,276	110		71	13	
焼損 面積	建物	床面積	862		231	467		137		27				
	(㎡)	表面積	11		3	4							4	
	林野(a)													
焼損車両台数		3		1		2								
焼損 棟数	全焼	5			1	1		3						
	半焼	2				1				1				
	部分焼	6		1	3					1			1	
	ぼや	14		3		4	2		1	2	1		1	
	合計	27		4	4	6	2	3	1	4	1		1	1
り災世帯数		10			3	1		1	1	3	1			
り災人員		14			4	2		1	1	4	2			
死者		1						1						
負傷者		6		2	1			1		1	1			

出火原因

(令和3年)

出 火 原 因	件 数
電 気 機 器	6
放 火	4
た ば こ	3
こ ん ろ	1
ス ト ー ブ	1
衝 突 の 火 花	1
電 気 装 置	1
電 灯 ・ 電 話 等 の 配 線	1
放 火 の 疑 い	1
不 明	1
そ の 他	4
合 計	24

初期消火状況

(令和3年)

区分	火災種別	建 物	林 野	車 両	船 舶	航空機	その他の	合計
		火 災	火 災	火 災	火 災	火 災	火 災	
初 期 消 火 実 施 (初期消火で鎮火)		10 (6)						10 (6)
初 期 消 火 な し		11		1			2	14
火 災 件 数		21		1			2	24

原因別出火件数及び損害額

(令和3年)

月別 区別	月別												合計	損害額 (千円)
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月		
たばこ			1			1		1					3	5,159
こんろ									1				1	110
ストーブ			1										1	30,587
電気装置								1					1	100
電灯・電話等の配線		1											1	130
衝突の火花		1											1	61
電気機器		2		1			1	1				1	6	9,657
放火			1	1	1						1		4	248
放火の疑い				1									1	1,236
その他		1			1					1		1	4	2,692
不明				1									1	18,250
合計		5	3	4	2	1	1	3	1	2	1	1	24	68,230

救 急

救急体制

本市の救急業務は、昭和38年4月26日高砂ロータリークラブから救急車の寄贈を受けて開始して以来、年々高まる救急需要に適宜対応し、救急体制の整備を図ってきました。また、平成22年10月から高砂西部地域の救急体制を強化するため、北浜救急ステーションを開設（平日昼間）し、現在では専任救急隊2隊、兼任救急隊1隊、北浜ステーション隊1隊の4隊体制となっています。

平成3年の救急救命士法施行以来、平成15年に包括的指示下での除細動、平成16年に気管挿管、また、平成18年には薬剤投与、平成26年4月から心肺機能停止前の静脈路確保及び輸液、血糖測定並びに低血糖発作症例へのブドウ糖溶液の投与について救急救命士の処置範囲が拡大されました。

これらに対応すべく医療機関との更なる連携、高度救命処置用資機材の整備、また救急隊員の再教育(病院実習等)等救急業務の高度化を図ることにより、市民の救急に対するニーズに応じています。

(令和4年4月1日現在)

救 急 車 数	4台
救 急 隊 員 数	専任23人 ・ 兼任10人
救 急 救 命 士	36人
気 管 挿 管 認 定 救 急 救 命 士	29人
薬 剤 投 与 認 定 救 急 救 命 士	29人
拡 大 二 行 為 認 定 救 命 士	25人

救急医療体制

夜間の救急医療体制については、昭和55年4月に東播磨2市2町（加古川市・高砂市・稲美町及び播磨町）並びに高砂市医師会と加古川市加古郡医師会で財団法人東播磨臨海救急医療協議会を設立し、内科及び小児科の診療体制で年間を通じて、内科及び小児科を午後9時から午前6時まで、「東はりま夜間休日応急診療センター」において、初期救急医療に対応するとともに外科及び2次救急については、東播第2次救急病院協議会に加盟している10病院の輪番制で対応しています。また、県立加古川病院が、平成21年11月から県立加古川医療センター・救命救急センターとして、地域の3次救急医療を担っています。

小児2次救急については、平成12年の4月から東播磨3市2町（明石市・加古川市・高砂市・稲美町及び播磨町）の指定病院で対応しています。

また、休日及び年末年始については、高砂市医師会が午前9時から午後6時までの間、内科及び外科の診療を会員の在宅当番制で実施しています。

救急の概要

令和3年の救急出動件数は、3,908件で前年に比べ137件増加し、傷病者搬送人員は3,447人で55人増加しており、出動件数及び搬送人員ともに増加となっています。

これは、1日平均10.7件出動したこととなり、市民25人に1人を救急車で医療機関へ搬送したことになります。

事故種別では、急病が2,528件（92件増）と最も多く全体の64.7%を占め、次いで一般負傷が585件（21件増）15.0%、転院搬送が364件（63件増）9.3%となっています。

傷病程度別搬送人員は、軽症が1,392人（146人減）40.4%を占め、中等症は1,763人（202人増）と最も多く全体の51.1%、重症は228人（10人減）6.6%、死亡は64人（9人増）1.9%となっています。

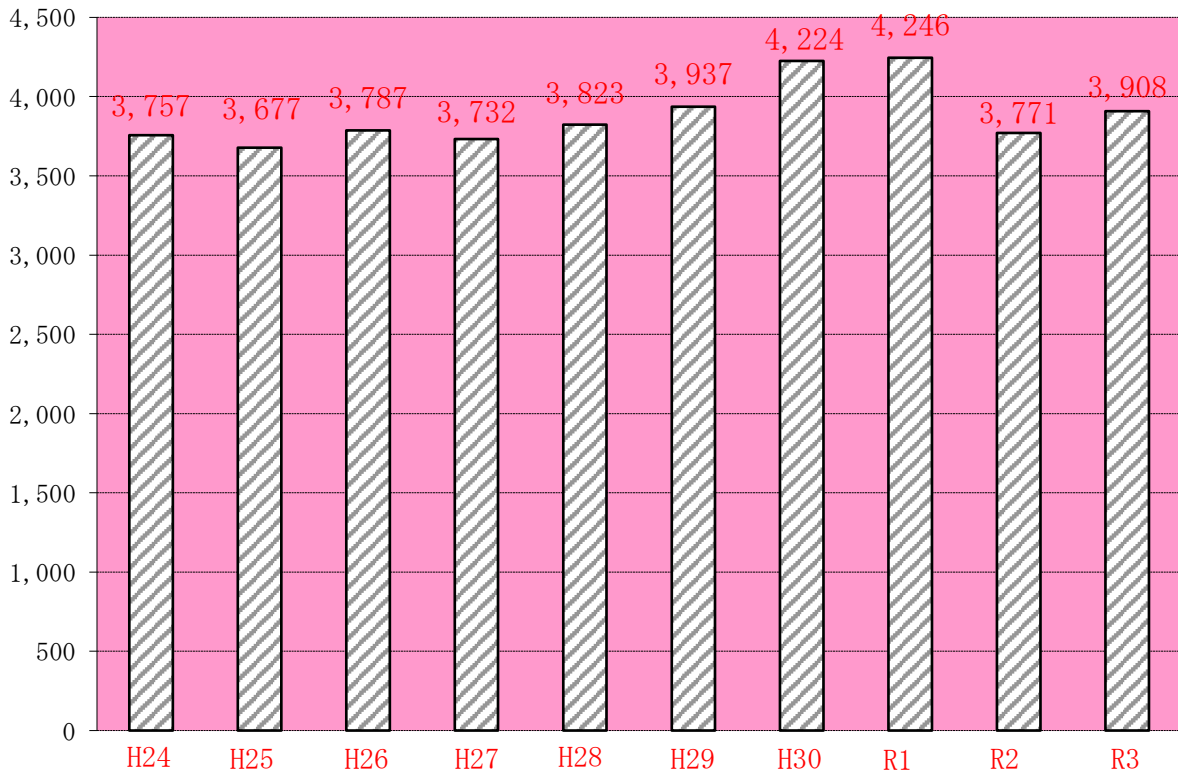
(令和3年)

区 分		救急出動件数	比 率	搬送人員
合 計		3,908	100.0%	3,447
救 急 事 故 種 別	火 災	17	0.44%	5
	自 然 災 害			
	水 難 事 故	4	0.10%	1
	交 通 事 故	270	6.91%	246
	労 働 災 害	36	0.92%	34
	運 動 競 技	27	0.69%	25
	一 般 負 傷	585	14.97%	525
	加 害	9	0.23%	8
	自 損 行 為	33	0.84%	18
	急 病	2,528	64.69%	2,225
そ の 他	転院搬送	364	9.31%	359
	医師搬送	1	0.03%	
	資機材等輸送			
	そ の 他	34	0.87%	1

救急出動状況

区分 年別	合計	火災	自然災害	水難事故	交通事故	労働災害	運動競技	一般負傷	加害	自損行為	急病	その他	搬送人員	人口
	H24年	3,757	8		6	468	42	11	505	18	38	2,372	289	3,451
H25年	3,677	3		2	426	40	27	495	14	30	2,365	275	3,360	94,282
H26年	3,787	3		5	414	33	26	534	22	38	2,455	257	3,487	93,818
H27年	3,732	10	2	6	396	26	22	538	27	18	2,375	312	3,462	93,357
H28年	3,823	12	1	4	394	29	38	532	27	25	2,434	327	3,510	92,770
H29年	3,937	11		1	389	37	25	565	20	33	2,542	314	3,602	92,020
H30年	4,224	8		2	384	44	24	535	14	31	2,838	344	3,867	91,159
R1年	4,246	7		5	379	49	22	602	12	39	2,739	392	3,847	90,462
R2年	3,771	9	1	4	299	47	16	564	17	40	2,436	338	3,392	89,762
R3年	3,908	17		4	270	36	27	585	9	33	2,528	399	3,447	88,968

件数



救急出動状況前年との比較

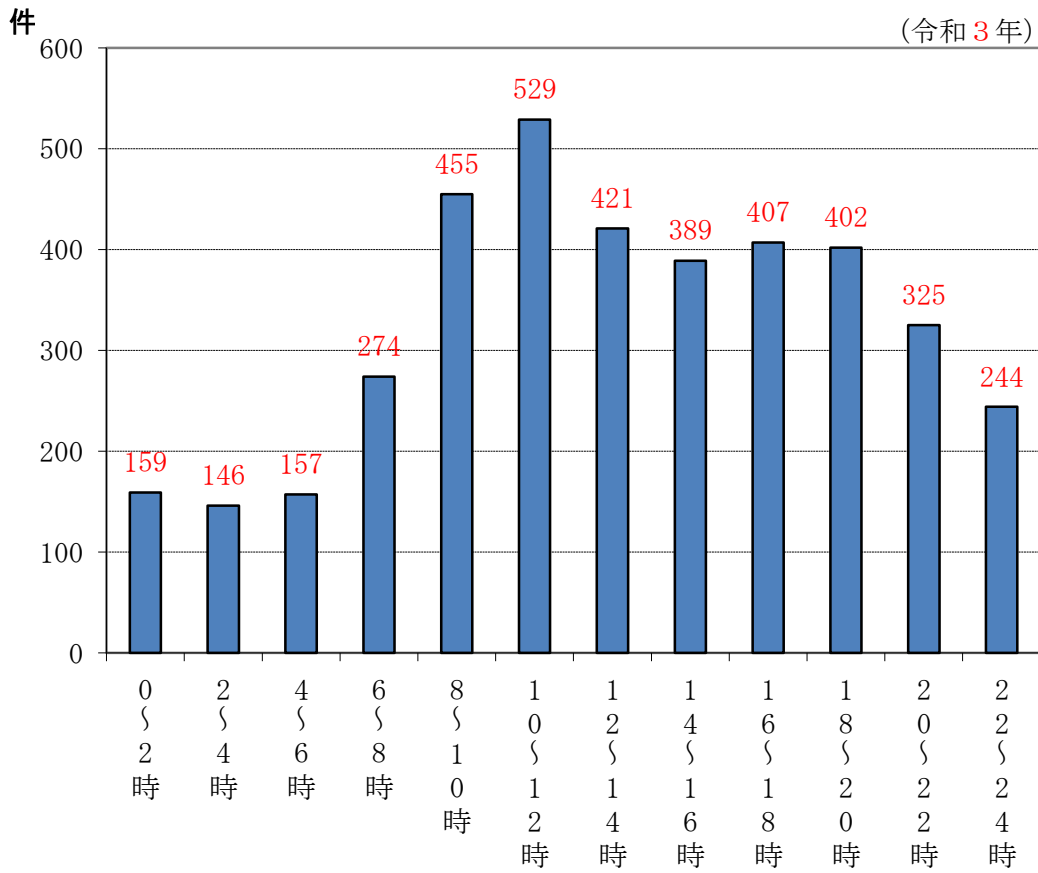
区 分		年 別	令和3年	令和2年	増 減	
合 計			3,908	3,771	137	
救 急 事 故 種 別	火 災		17	9	8	
	自 然 災 害			1	△ 1	
	水 難 事 故		4	4	0	
	交 通 事 故		270	299	△ 29	
	労 働 災 害		36	47	△ 11	
	運 動 競 技		27	16	11	
	一 般 負 傷		585	564	21	
	加 害		9	17	△ 8	
	自 損 行 為		33	40	△ 7	
	急 病		2,528	2,436	92	
	そ の 他	転 院 搬 送		364	301	63
		医 師 搬 送		1		1
		資 機 材 等 輸 送				
		そ の 他		34	37	△ 3
不 搬 送 件 数			475	394	81	
搬 送 人 員			3,447	3,392	55	
傷 病 程 度	死 亡		64	55	9	
	重 症		228	238	△ 10	
	中 等 症		1,763	1,561	202	
	軽 症		1,392	1,538	△ 146	
	そ の 他					

月別救急出動件数

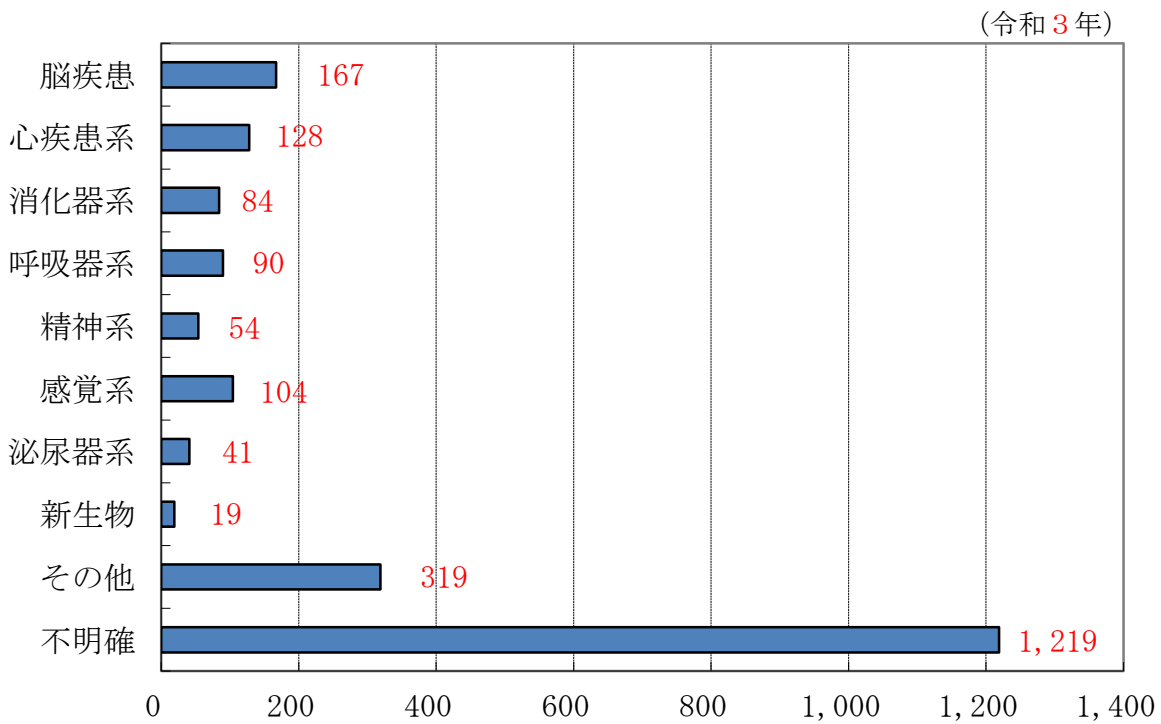
(令和3年)

月別 区分		合計	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
		合計	3,908	314	278	314	341	307	278	404	340	311	328	330	363
救急 事 故 種 別	火災	17		4	3	3	1	1		3	1		1		
	自然災害														
	水難事故	4			1						3				
	交通事故	270	17	23	19	27	22	18	29	13	18	22	28	34	
	労働災害	36	3	2		4	2	4	4	7	3	1	4	2	
	運動競技	27	1			2	1	5	2	3	4	2	3	4	
	一般負傷	585	47	40	47	55	40	36	56	45	38	57	56	68	
	加害	9		1	2	1			1	1		2		1	
	自損行為	33	2	2	4	1	1	3		3	5	5	5	2	
	急病	2,528	210	185	202	202	210	180	267	234	205	205	201	227	
	その他	転院搬送	364	31	20	32	44	28	27	40	28	33	29	30	22
		医師搬送	1											1	
		資機材等輸送													
		その他	34	3	1	4	2	2	4	5	3	1	5	1	3
不搬送件数		475	44	30	47	37	32	39	52	46	34	38	41	35	
搬送人員		3,447	270	252	267	308	276	239	352	294	278	290	290	331	
傷病 程 度	死亡	64	5	7	5	5	1	4	6	5	7	7	6	6	
	重症	228	18	14	23	22	26	9	19	21	16	22	14	24	
	中等症	1,763	142	127	132	171	141	128	159	148	142	144	152	177	
	軽症	1,392	105	104	107	110	108	98	168	120	113	117	118	124	
	その他														

時間別救急出動件数



急病にかかる疾病分類別搬送人員



現場到着所要時間別出動件数

現場到着所要時間別出動状況は、5分以上10分未満が2,972件と最も多く全体の76.0%を占めている。なお、現場到着平均所要時間は7分00秒である。

(令和3年)

時間 区分	合計	3分未満	3分以上 5分未満	5分以上 10分未満	10分以上 20分未満	20分以上
合計	3,908	42	556	2,972	333	5
急病	2,528	20	309	1,969	227	3
交通事故	270	6	50	191	21	2
一般負傷	585	5	67	466	47	
上記以外	525	11	130	346	38	

病院収容所要時間別搬送人員状況

病院収容所要時間別の搬送人員は、30分以上60分未満が1,979件と最も多く全体の57.4%を占めている。

(令和3年)

時間 区分	合計	10分以上 20分未満	20分以上 30分未満	30分以上 60分未満	60分以上 120分未満	120分以上	病院到着 平均所要時間
合計	3,447	90	1,245	1,979	128	5	34分23秒
急病	2,225	38	758	1,352	74	3	34分48秒
交通事故	246	18	93	122	13		33分10秒
一般負傷	525	15	160	329	19	2	35分15秒
上記以外	451	19	234	176	22		31分58秒

応急処置等の実施状況

(令和3年)

区 分	事故種別					合 計
	急 病	交通事故	一般負傷	左記以外		
応急処置対象搬送人員	2,225	246	524	449		3,444
止 血	8	5	32	4		49
固 定	4	49	18	21		92
人 工 呼 吸	7		1	4		12
心 肺 蘇 生	85	1	3	7		96
酸 素 吸 入	399	13	25	106		543
気 道 確 保	93	3	4	9		109
うち経鼻エアウェイ ※1						
うち喉頭鏡、鉗子 ※2	4		1			5
うちラリングアルマスク等 ※3	38		1	4		43
うち気管挿管 ※4	4		1			5
保 温	7	4	4	6		21
被 覆	8	39	74	14		135
在 宅 療 法 継 続	14					14
除 細 動	11					11
静 脈 路 確 保 (輸 液)	31	1	1	3		36
薬 剤 投 与	13			2		15
血 糖 測 定	8					8
ブ ド ウ 糖 投 与	5					5
血 圧 測 定	2,032	242	486	429		3,189
心 音 ・ 呼 吸 音 聴 取	908	78	151	155		1,292
血 中 酸 素 飽 和 度 測 定	2,140	245	517	444		3,346
心 電 図	997	25	52	162		1,236
合 計	6,770	705	1,368	1,366		10,209

※1 経鼻エアウェイを使用して気道確保を行った数を内数として記載

※2 喉頭鏡・鉗子等により異物除去を行った数を内数として記載

※3 救急救命士がラリングアルマスク等を使用して気道確保を行った数を内数として記載

※4 救急救命士が気管挿管処置を実施して気道確保を行った数を内数として記載

救急講習会実施状況

区 分	平成元年		令和2年		令和3年	
	回 数	人 数	回 数	人 数	回数	人 数
一 般 救 急 講 習 会	71	1,748	7	151	19	299
普 通 救 命 講 習 会	26	454	1	12	12	102
上 級 救 命 講 習 会	1	13			1	10
応 急 手 当 普 及 員 講 習 I	2	2			1	5
ジュニア救命士認定講習	9	654			3	221
計	109	2,871	8	163	36	637

救 助

救助体制

火災、交通事故及び労災事故等の救助事案に対応する救助体制については、本市では長い間事故種別に応じて救急隊と消防隊が協力して、わずかな救助器具を活用して対応していました。

しかし、昭和61年には消防法の一部改正で救助隊の設置が義務づけられたこと、さらに管内で発生する救助事案も年々複雑化し、従来の対応では困難を生じてきたため、専門的な救助技術を有する救助隊の編成・配備が急務となってきました。

そこで平成元年に近隣各市等の協力を得て救助隊員の養成を開始し、平成2年8月に高砂市消防救助隊を隊長以下15名で発足させ、さらに平成3年には、省令第2条の基準に定められた救助器具を積載した救助工作車を購入・配備して本格的な活動を開始しました。

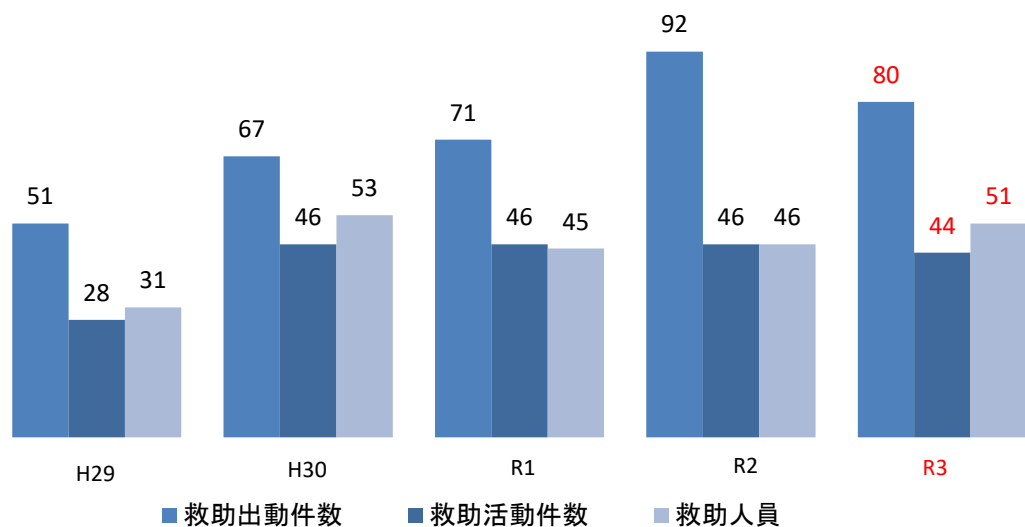
さらに、平成19年には救助工作車を更新し、大規模災害において迅速・的確な人命救助活動を可能とするため必要な資機材を整備しています。

救助の概要

令和3年中の救助出動件数は80件で、前年に比べ12件減少し、救助活動件数は44件で前年に比べ2件減少しています。救助人員は、51人で5人増加しています。

出動件数等の推移

区 分 \ 年 別	平成29年	平成30年	令和元年	令和2年	令和3年
救助出動件数	51	67	71	92	80
救助活動件数	28	46	46	46	44
救助人員	31	53	45	46	51



救助出動状況前年との比較

年 別 区 分		令和3年	令和2年	増 減
		出 動 件 数	80	92
活 動 件 数	44	46	△ 2	
救 助 人 員	51	46	5	
事 故 種 別	火 災	1	3	△ 2
	交 通 事 故	13	12	1
	水 難 事 故	2	2	0
	自 然 災 害			
	機 械 事 故			
	建物等による事故	25	26	△ 1
	ガス・酸欠事故	1	1	0
	破 裂 事 故			
そ の 他 の 事 故	38	48	△ 10	
傷 病 程 度	死 亡	14	13	1
	重 症	6	6	0
	中 等 症	15	10	5
	軽 症	8	11	△ 3
	そ の 他	8	6	2

月別救助出動件数

(令和3年)

月 別 種 別	総 数	火	交	水	自	機	建 事	ガ	破	そ
		災	通	難	然	械	物 事	ス	裂	の
		故	事	事	害	事	等 による 故	・ 酸欠事故	事 故	他 の 故
1 月	6		1				2			3
2 月	5		2				1			2
3 月	7		1				1			5
4 月	6		1				3			2
5 月	7		2				3	1		1
6 月	7	1								6
7 月	5						2			3
8 月	10						4			6
9 月	5		1	1			1			2
10 月	9		2				2			5
11 月	7		2	1			3			1
12 月	6		1				3			2
合 計	80	1	13	2			25	1		38

救助種別及び傷病程度

(令和3年)

種 別 区 分		総 数	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害	機 械 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス ・ 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故
出 動 件 数		80	1	13	2			25	1		38
活 動 件 数		44	1	8	2			25	1		7
救 助 人 員		51	1	13	2			26	1		8
傷 病 程 度	死 亡	14	1	1	1			11			
	重 症	6		4				1	1		
	中 等 症	15		4	1			9			1
	軽 症	8		4				2			2
	そ の 他	8						3			5
	合 計	51	1	13	2			26	1		8

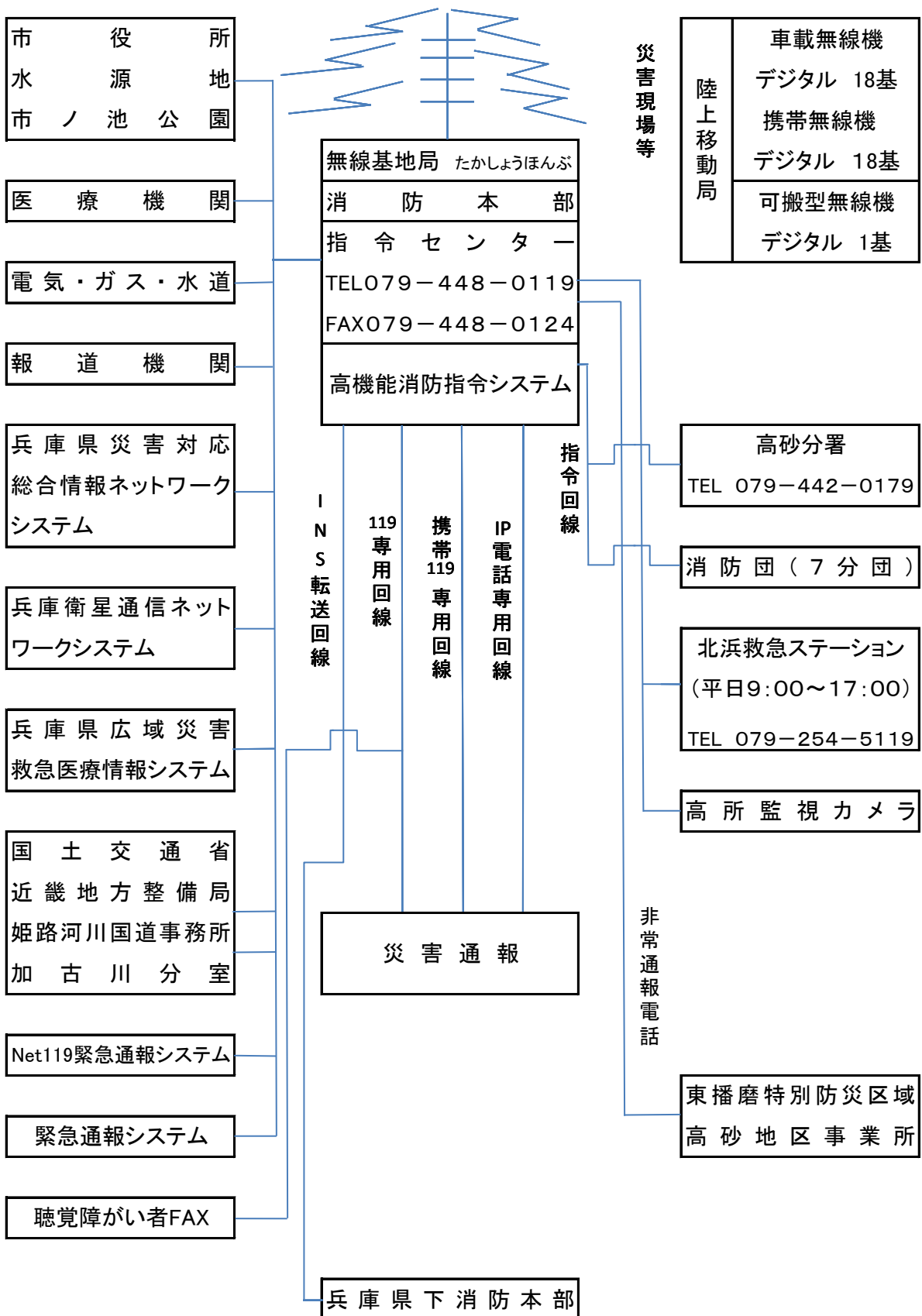
発生場所別出動件数

(令和3年)

種 別 区 分		総 数	火 災	交 通 事 故	水 難 事 故	自 然 災 害	機 械 事 故	建 物 等 に よ る 事 故	ガ ス ・ 酸 欠 事 故	破 裂 事 故	そ の 他 の 事 故
屋 内	住 居	51	1					24			26
	そ の 他 の 屋 内										
屋 外	道 路	11		9							2
	水 面	内 水 面	1		1						
		外 水 面	2			2					
	山 岳	6									6
そ の 他 の 屋 外		9		3				1	1		4
そ の 他											
合 計		80	1	13	2			25	1		38

管制

消防通信系統図



指令センター

近年の都市構造の変化・情報の高度化・高齢化社会及び広域防災に対する対応力の強化などが問われているなか、市民の安全で快適な暮らしを守ることを基本目標に、先端技術を駆使した高機能消防指令システムの導入を図り、平成26年3月29日から運用開始しています。

指令電送装置・消防職員／消防団指令システム

地震、火災等は迅速な対応が求められるため、指令台と連動しEメールにより消防職員、消防団員の携帯電話に災害情報を送るもので、平成26年3月29日から運用を開始しています。

兵庫県災害対応総合情報ネットワークシステム（フェニックス防災システム）

阪神・淡路大震災の教訓をふまえ、光ファイバーケーブルにより、県・市町・消防本部及び関係機関に設置された防災ワークステーションと直結しています。

県下市町に設置されている地震計等からの情報収集とその解析により、迅速・的確な応急対応が可能で、平成8年9月25日から県下一斉に運用を開始しています。

兵庫衛星通信ネットワークシステム（衛星アンテナ・衛星端局・防災電話・防災FAX）

このシステムは、地上の災害による影響を受けないので停電やケーブルの断線等による通信途絶の心配がなく、防災情報等の収集及び伝達が的確にでき、災害に対して迅速な対応ができます。

高砂市も災害の未然防止、災害の軽減を図るため平成5年4月から運用を開始しています。

兵庫県広域災害・救急医療情報システム

阪神・淡路大震災の教訓をふまえ、大規模災害に対応できるよう、災害時における医療の情報及び平時における救急医療の情報提供を行います。また平成21年4月から新システムの更新に伴い、患者の重症度（一定の基準）に応じて複数の医療機関に一斉に搬送要請を行い、医療機関から応需可否情報を受けることによって、早期に受入医療機関を確保するものです。

Net119緊急通報システム

聴覚や言語機能に障がいがあり、音声による緊急通報が困難な方が円滑に消防への通報を行えるようにするシステムです。携帯電話やスマートフォンのWeb（インターネット）機能を通して、簡単な操作で119番通報ができます。令和2年12月から運用を開始しています。

緊急通報システム

一人暮らしの高齢者が急病等に見舞われた際、「119番」のダイヤルを回すことなくワンタッチ操作により緊急通報受信センターに緊急事態を通報することができるシステムです。平成3年11月1日から運用を開始しています。

聴覚障がい者FAX

聴覚や言語機能に障がいがあり、音声による緊急通報が困難な方が利用できるように、高砂市消防本部指令センターに緊急通報受信専用ファクシミリを設置し、平成11年7月1日から運用を開始しています。

非常通報電話

石油コンビナート等災害防止法に基づく東播磨特別防災区域高砂地区協議会の会員事業所6社と消防本部とを直結した通報専用回線で、災害発生時にはワンタッチで連絡することができるもので、平成5年9月1日から運用を開始しています。

緊急情報ネットワークシステム（Em-Net）

このシステムは、行政用専用回線（LGWAN）で都道府県・市区町村に対して、端末PCへ強制的にメッセージが着信、アラームが鳴り、警報や避難措置などの国民保護法に基づく法定通知文書を配信するためのもので、平成21年8月31日から運用を開始しています。

通信・気象

119番受付件数

(令和3年)

月	区分	災 害				試 験	問 い 合 わ せ	い た ず ら	間 違 い	そ の 他	計
		火 災	救 急	救 助	そ の 他						
1	専 用		174	1		19	12			31	237
	携 帯		121	2	2	5	38		9	42	219
	小 計		295	3	2	24	50		9	73	456
2	専 用	1	133	1		21	14		1	11	182
	携 帯	6	126	4	1		23		3	33	196
	小 計	7	259	5	1	21	37		4	44	378
3	専 用	1	156			27	13		2	17	216
	携 帯	2	127	2	3	5	45		6	32	222
	小 計	3	283	2	3	32	58		8	49	438
4	専 用	3	134			22	18		8	33	218
	携 帯	5	137	3	1	1	48		8	29	232
	小 計	8	305	3	1	23	66		16	62	484
5	専 用		123	1		25	17			18	184
	携 帯	2	151	2			50		10	42	257
	小 計	2	274	3		25	67		10	60	441
6	専 用	1	104		1	12	13		2	13	146
	携 帯	3	133	2	1		36		12	37	224
	小 計	4	237	2	2	12	49		14	50	370
7	専 用		180	1		20	13		2	17	233
	携 帯		189	2			56	1	7	50	305
	小 計		369	3		20	69	1	9	67	538
8	専 用		138		1	13	20		6	32	210
	携 帯	3	162	6	1	1	59		10	35	277
	小 計	3	300	6	2	14	79		16	67	487
9	専 用	1	137	1		16	12		2	14	183
	携 帯		142	1	4	1	45		6	32	231
	小 計	1	279	2	4	17	57		8	46	414
10	専 用	2	146	1		26	19		7	21	222
	携 帯	2	155	6	1	1	48	1	11	53	278
	小 計	4	301	7	1	27	67	1	18	74	500
11	専 用		149			36	19		3	6	213
	携 帯	1	159	4	1		54		19	39	277
	小 計	1	298	4	1	36	73		22	45	480
12	専 用		166		1	27	15		5	13	227
	携 帯	3	160	3	2	2	49		11	29	259
	小 計	3	326	3	3	29	64		16	42	486
合計	専 用	9	1,764	6	3	264	185		38	226	2,495
	携 帯	27	1,762	37	17	16	551	2	112	453	2,977
	小 計	36	3,526	43	20	280	736	2	150	679	5,472

※ 専用 = IP電話を含む、携帯 = 転送を含む

気象状況

(令和3年)

月別	風向	風速 (m/s)		気温 (°C)			湿度 (%)			雨量 (mm)		
	最多風向頻度 (%)	最大瞬間風速	平均風速	最高気温	最低気温	平均気温	最高湿度	最低湿度	平均湿度	降(日雨最大量)	積算降雨量	降雨日数
1	27.2 西北西	22.6 西南西	2.8	16.2	-5.2	4.9	99.4	26.0	67.5	22.0	56.5	7
2	19.3 西北西	20.0 西	2.7	19.2	-2.7	7.4	97.1	15.3	61.5	24.5	32.5	4
3	28.2 北東	16.3 南	2.5	20.6	1.4	11.3	99.9	12.6	65.5	21.5	69.5	8
4	21.4 北東	19.1 北西	2.4	25.7	3.2	14.6	99.9	10.4	62.4	44.0	95.0	9
5	19.3 北東	19.1 南南西	2.4	27.6	7.3	19.2	99.9	19.7	74.8	35.0	142.5	11
6	25.1 北東	13.1 南東	2.0	30.2	16.4	23.4	99.9	32.4	75.5	48.0	118.5	10
7	25.0 北東	14.1 西北西	2.0	34.8	21.7	27.3	99.9	35.6	80.1	66.0	251.0	9
8	22.0 北東	24.6 西南西	2.4	35.6	21.3	27.6	99.9	38.8	82.2	52.5	243.5	12
9	32.4 北東	10.9 北東	2.0	32.1	19.1	24.6	99.9	46.3	78.7	42.0	178.5	11
10	29.3 北東	21.3 西北西	2.2	30.3	7.6	19.5	97.3	34.7	71.5	25.5	36.0	6
11	22.0 北東	16.3 西南西	2.2	23.5	2.2	13.0	99.9	28.8	68.8	35.5	87.5	4
12	30.8 西北西	21.9 西北西	2.9	16.6	-1.4	7.6	98.7	30.5	67.4	12.5	25.5	3
年間	22.6 北東	24.6 西南西	2.4	35.6	-5.2	16.7	99.9	10.4	71.1	251.0	1336.5	94

※ 高砂市消防本部（高砂市伊保4丁目）観測データ

施設・装備

消防水利の現況

(令和4年4月1日現在)

地区 \ 水利	防火水槽	井戸	プール	消火栓	合計
高砂	14		5	219	238
荒井	21		2	281	304
伊保	15		2	431	448
中筋	7		2	133	142
曾根	10		3	253	266
米田	13	3	3	340	359
阿弥陀	24		2	280	306
北浜	9		1	137	147
合計	113	3	20	2,074	2,210

消防車両一覧

(令和4年4月1日現在)

配備先	配備車両	ポンプ性能	排気量(CC)	登録年月日
消防本部	査察兼広報車		1,830	H14. 3. 11
	連絡車		1,330	H18. 5. 30
	連絡車(軽四)		650	H28. 10. 18
	支援車		2,730	H17. 1. 11
	物資搬送車		1,780	H15. 2. 25
	物資搬送車		4,000	H29. 1. 12
消防署	普通消防ポンプ自動車(CD-I型)	A-2	4,000	H22. 12. 15
	梯子付消防自動車(30m級)		10,520	H18. 2. 23
	水槽付普通消防ポンプ自動車(I-A型)	A-2	6,400	H17. 3. 7
	大型化学消防ポンプ自動車(大I型)	A-1	10,520	H13. 3. 19
	泡原液搬送車		7,960	H15. 3. 17
	救助工作車(II型)		6,400	H19. 1. 26
	救急車(高規格車)		2,690	R3. 1. 12
	救急車(高規格車)		2,690	H25. 1. 29
	救急車(高規格車)		2,690	H22. 6. 18
	指揮指令車		2,690	H23. 1. 25
	資機材搬送車		7,160	H16. 3. 11
高砂分署	普通消防ポンプ自動車(CD-I型)	A-2	4,890	H11. 10. 28
	災害対応特殊化学消防ポンプ自動車(I型)	A-2	5,120	H30. 3. 15
	救急車(高規格車)		2,690	H28. 12. 19

主な消防機械器具の状況

(令和4年4月1日現在)

資 機 材 名		数 量	資 機 材 名		数 量	
放水器具	消防用ホース (75 mm)	12	救助器具	熱画像直視装置	1	
	消防用ホース (65 mm)	201		水中通話装置一式	1	
	消防用ホース (50 mm)	269		潜水器具一式	8	
	消防用ホース (40 mm)	16		救命ボート	4	
	小型動力消防ポンプ (B-2級)	3		救助用三脚	1	
	小型動力消防ポンプ (C-1級)	2		油圧ジャッキ	2	
	放水砲	2		簡易画像探査装置	1	
	ラインプロポーションナー	2		救助用支柱器具	1	
	高発泡器	1		測定器具	可燃性ガス測定器	3
	組立式簡易水槽	4			放射線測定器	7
ジェットシューター	13	ポケット線量計	21			
救助器具(救)	かぎ付はしご	1	隊員保護具	空気呼吸器	29	
	三連はしご	1		耐電衣	7	
	救命索発射銃	1		化学防護服 A	3	
	サバイバースリング	1		化学防護服 B・C	63	
	救助用縛帯	1		耐熱防火衣	6	
	エンジンカッター	1		放射能防護服	3	
	チェーンソー	1		救急器具	高圧蒸気滅菌器	2
	バスケット型担架	1	オゾン水生成装置		2	
	可搬式ウインチ	1	オゾンガス生成装置		2	
	積載分)	油圧式カッター	2	照明器具	携帯用発動発電機	14
油圧式スプレッダー		1	コードリール		10	
空気式マット型ジャッキ		1	三脚付投光器		9	
ハンマードリル		1	その他	エアータント	2	
送排風機	1	インパルス銃		2		
	携帯用破壊器具	1		高圧空気圧縮機	1	

水 防

事前調査

5月24日 市内危険箇所調査

活動

(令和3年)

	災 害 内 容	消 防 活 動 状 況
7月7日	大雨による道路冠水	危険箇所の調査を実施
7月8日	大雨による道路冠水	危険箇所の調査を実施
7月9日	大雨警報発令による警戒	土のう搬送を実施
7月14日	大雨による道路冠水及び浸水	現地調査及び土のう搬送を実施
7月15日	大雨による土砂崩れ及び落石	現地調査及び積み土のうを実施
8月13日	波浪により船舶が座礁 大雨による水路からの越水	現地調査を実施 積み土のうを実施
8月18日	大雨による裏山からの倒木	倒木の伐採を実施
9月18日	大雨による裏山の土砂崩れ	積み土のうを実施